

弱酸性次亜塩素酸水
CELA水
安 全 性



CELA(R)（セラ）とは安全な除菌と消臭を基本に考えて作られたpHを安定させた弱酸性次亜塩素酸水です。

農業や畜産の健全育成に欠かせない、安定したpH6.5を生成できる唯一の弱酸性水生成装置です。

CELA（セラ）は、従来の塩素系除菌消臭剤とは大きく違い、塩素ガスの発生がなく、直接肌に触れても人体に殆ど影響を及ぼす事がないので安心です。

【特徴】

- ・ 人体に対する安全性：人畜無害
- ・ 殺菌速度：瞬時に殺菌
- ・ 強力な消臭力：加湿器など一定時間の噴霧が一層効果的
- ・ 特許第4413983号

	セラ水 (弱酸性次亜塩素酸水)	高濃度の次亜塩素酸水 (80ppm以上)	次亜塩素酸ナトリウム	アルコール
除菌力	◎ 次亜塩素酸ナトリウムの約8倍の除菌力、約80倍の除菌速度！ノロウイルスにも効果あり！	◎ 次亜塩素酸ナトリウムの約8倍の除菌力、約80倍の除菌速度！ノロウイルスにも効果あり！	○ 高濃度であればノロウイルスにも効果あるが除菌には時間がかかる	△ ノロウイルスには効果なし 芽胞菌に効果なし
消臭力	◎ 無添加・無臭 / 即効性高い 悪臭を匂いの元から瞬間分解消臭	◎ 無添加・無臭 / 即効性高い 悪臭を匂いの元から瞬間分解消臭	× 強烈な刺激臭があり、塩素臭が残る 消臭目的にはそもそも向いていない	△ 細菌を殺菌することによる抑制効果はあるが、消臭の即効性は低い
pH値	弱酸性で安定	微酸性～中性	強アルカリ性	
安全性	◎ 弱酸性&50ppmで安全 人体に害はない 口腔洗浄にも使用される 引火性・毒性 一切なし	○ 30-80ppmに希釈すれば安全 希釈を間違えば危険 引火性・毒性 一切なし	× 人体に害を与えるので取扱注意 強烈な刺激臭 ゴム手袋とマスクは必須 引火性なし・毒性あり	△ 人体に害を与えるので取扱注意 強烈な刺激臭 ゴム手袋とマスクは必須 引火性なし・毒性あり
残留性	◎ 除菌後は水に戻るので残菌しない	◎ 除菌後は水に戻るので残菌しない	× 残菌するため、使用後は洗浄が必要	◎ すぐに揮発するので残菌しない
保存性	◎ 密閉&冷暗所保管により長期保存可能 (開封後でも)	△ 商品と製法によるので要確認	× 濃度が不安定なため長期保存不可	◎ 未開封で1-3年保存可能 開封後は保存状態による
超音波式加湿器	◎ ミストを吸い込んでも人体への影響なし	△ 希釈濃度によるため要注意	× 絶対に不可！ 超危険！！	× 絶対に不可！ 超危険！！
留意点	特になし = 安心安全	・濃度に注意！	・漂白作用がある ・酸性物質と混ぜると有毒ガス発生 ・金属を腐食させる	・長時間浸すとゴムや合成樹脂を変質させる

弱酸性次亜塩素酸水 CELA水
安全データシート

CELA 水安全データシート

1. 化学品及び会社情報

【化学品の名称】

製品名 CELA 水 (Clean Water CELA の総称)

【提供者の情報】

会社名 ブリッジパディ合同会社
 住所 〒569-1046 大阪府高槻市塚原 2-39-34
 電話番号/ FAX 番号 070-5651-1706/06-7732-3907

2. 危険有害性の要約分

分類の名称 類基準に該当しない
 危険性 なし
 有害性 なし

3. 組成及び成分情報

化学名(表示名) 弱酸性次亜塩素酸水
 表示品質 pH6.50 (±0.05) 50mg/ℓ
 化学式 HClO
 主成分 水道水、次亜塩素酸ナトリウム、希塩酸

4. 応急措置
 吸入した場合 有害性がみられないため、特別な対策は不要です。
 無反応 応急手当不要
 皮膚に付着した場合 無刺激 応急手当不要
 目に入った場合 無刺激 応急手当不要
 飲み込んだ場合 無毒 応急手当不要

5. 火災時の措置

適切な消火剤 不燃性につき不要
 使ってはならない消火剤 燃性につき不要

6. 漏出時の措置

〈人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置〉 人体に毒性無く、保護目、緊急時措置は不要です。
 〈環境に対する注意事項〉 なし
 〈封じ込め及び浄化の方法及び機材回収、中和などの浄化の方法及び機材等〉 不要

〈二次災害の防止策〉

漏出場所の滑りを防止する為に、雑巾、モップ等でふいて乾燥させる。

7. 取扱い及び保管上の注意

〈取扱上の注意事項〉

水道水と同等。ただし飲料水ではありません。

- ・取扱者のばく露防止策 不要
- ・火災、爆発の防止などの適切な技術的対策 不要
- ・エアロゾル・粉じんの発生防止策 不要

〈保管上の注意事項〉

- ・混合接触させてはならない化学物質 化学薬品との混合は不可。
- ・保管条件 直射日光や有機物混入を避ける、紫外線不透過の容器にて保管。分解にて生じる有害物無し。
(弱アルカリ水に変化、酸化しない)

8. ばく露防止及び保護措置

〈ばく露防止〉

- ・ばく露限界値 全身ばく露吸入試験(ラット)毒性無し
- ・管理指標濃度 50ppm+20%
- ・ばく露防止の設備対策 不要

〈保護措置〉

- ・適切な保護具 不要

9. 物理的及び化学的性質

化学品の外観	水と同様の液体 無色透明
臭い	わずかな塩素臭
pH	6.5 ± 0.05 (生成基準値)
氷点	水と同様
沸点	水と同様
蒸気圧	水と同様
蒸発率(水=1)	約 1
水溶性	完全水溶
爆発性	無し

有効塩素	50mg/l(生成基準値)
10. 安定性及び反応性	
安定性	通常の取扱条件において安定。(生成水士0.05)
避けるべき条件	直射日光や有機物の混入 化学薬品の混入
混色危険物質	化学薬品
11. 有害性情報	
急性毒性	経口(ラット)毒性無し ミスト吸入(ラット)毒性無し
皮膚に対する損傷、刺激性	無刺激物
眼に対する損傷、刺激性	無刺激物
生活環境下での安全性	無毒性・無害で、環境に安全(室内環境下での暴露噴霧テストにて)
12. 環境影響情報	
生態毒性	なし
残留性・分解性	なし
生態蓄積性	なし
土壤中の移動性	なし
オゾン層有害性	なし
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄	危険・有害物ではないので、そのまま下水に廃棄しても問題ない。
専用容器	空容器は、内容物を完全除去後に処分。
14. 輸送上の注意	
輸送	危険物ではない
輸送条件	容器上下を確定する。漏れのないこと。転倒、落下、荷崩れの無いように
15. 適用法令	

安全衛生	該当しない。
化学物質管理	該当しない。
消防	該当しない。
海洋汚染防止	該当しない。
毒物劇物取締法	該当しない。
食品衛生	該当しない。
薬事	該当しない。
家庭用品品質表示	該当しない。

16. その他の情報	特になし
------------	------

当安全データシートに記載されている情報は、上記日付時点で、弊社の把握している情報に基づき正確ですが、全ての資料や文献を精査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見によって改訂されることがあります。

この情報は、安全な取り扱いや保管、運送、廃棄の為に提供するもので、ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

この情報は、通常的な取り扱いを対象としたもので、特殊な扱いには該当致しません

弱酸性次亜塩素酸水 CELA水
第3者機関による試験結果一覧

第三者機関において確認された各種試験結果一覧です。
 (検査データはCELA開発メーカーのミツヤテック株式会社からの提供)

■インフルエンザウイルス不活化試験

インフルエンザウイルスA型(H1N1)を添加し5分作用後、ウイルス感染価を測定した結果、99.8%不活化したことを確認しました。

試験依頼先：財団法人日本食品分析センター

試験成績書発行年月日：2009年11月26日

試験成績書発行番号：第09010212001-1号

試験ウイルス	試験開始時 Log TCID50/ml	1分後 Log TCID50/ml	5分後 Log TCID50/ml	5分後不活化率
インフルエンザ ウイルス(H1N1)	6.0	4.3	3.3	99.8%

TCID50：median tissue culture infectious dose,50%組織培養感染率

表の数値は作用液1mlあたりのTCID50の対数値

■ネコカリシウイルス(ノロウイルス代替)不活化試験

ネコカリシウイルス(ノロウイルス代替)を添加し5分作用後、ウイルス感染価を測定した結果、99.98%不活化したことを確認しました。

試験依頼先：財団法人日本食品分析センター

試験成績書発行年月日：2008年11月7日

試験成績書発行番号：第208092266-001号

試験ウイルス	試験開始時 Log TCID50/ml	1分後 Log TCID50/ml	5分後 Log TCID50/ml	5分後不活化率
ネコカリシウイルス※ (ノロウイルス代替)	6.8	3.7	3.0	99.8%

TCID50：median tissue culture infectious dose,50%組織培養感染率

表の数値は作用液1mlあたりのTCID50の対数値

※ネコカリシウイルスは、細胞培養が不可能なノロウイルスの代替ウイルスとして試験で一般的に使用されています。

<TCID₅₀の見方>

ネコカリシウイルス(ノロウイルス代替)の不活化試験において
 試験開始時「6.8」の対数値が、5分後「3.0」という結果になりました。
 試験結果として

『CELA水は10⁶TCID50/mlのネコカリシウイルスを5分で10⁻³TCID50/mlに
 不活化する効果がある』ということを示しています。

感染価は下記のようにも示されることがあります。

- ・ 1.0下がる=1/10 (10の1乗) の効果がある。
- ・ 2.0下がる=1/100 (10の2乗) の効果がある。
- ・ 3.0下がる=1/1000 (10の3乗) の効果がある。

測定結果は、開始時「6.8」→5分後「3.0」となり「3.8」以上の差が測定されたため、
 『1,000分の1以上～10,000分の1未満の効果がある』ということになります。

■抗菌試験1

試験ウイルス（枯草菌、大腸菌O157、黄色ブドウ球菌）に対して有効に働くことを確認しました。

試験依頼先：財団法人日本食品分析センター

試験成績書発行年月日：2008年11月11日

試験成績書発行番号：第208092266-002号

試験ウイルス	試験開始時 生菌数 (/ml)	1分後 生菌数 (/ml)	5分後 生菌数 (/ml)	20分後 生菌数 (/ml)
枯草菌（芽胞）	8.8×10^6	5.2×10^6	1.7×10^6	20
大腸菌（O157:H7）	2.4×10^6	<10	—	—
黄色ブドウ球菌	3.4×10^6	<10	—	—

保存温度は室温

<10：検出せず

—：実施せず

試料液10mlに試験菌を0.1ml接種し、試験液とした。

室内保存で1分後～経過時間後に試験液をSCDLP培地で10倍に希釈後、生菌数を測定した。

■抗菌試験2

試験ウイルス（レジオネラ、カンピロバクター、サルモネラ属菌）に対して有効に働くことを確認しました。

試験依頼先：財団法人日本食品分析センター

試験成績書発行年月日：2010年6月24日

試験成績書発行番号：第10034466001-01号

試験ウイルス	試験開始時 生菌数 (/ml)	30秒後 生菌数 (/ml)	1分後 生菌数 (/ml)	5分後 生菌数 (/ml)
カンピロバクター	3.2×10^6	<100	<100	<100
レジオネラ	5.6×10^6	<100	<100	<100
サルモネラ	6.3×10^6	<10	<10	<10

保存温度は室温

<100 および <10：検出せず

試料液10mlに試験菌を0.1ml接種し、試験液とした。

室内保存で30秒後～経過時間後に試験液をSCDLP培地で10倍に希釈後、生菌数を測定した。

■アレルギー不活化試験

アレルギー溶液（スギ花粉粗抽出液、ダニ粗抽出液）を添加し反応させ、反応後の溶液中アレルギー濃度を測定した結果、対象アレルギーへの低減作用があると考えられます。

試験依頼先：ITEA株式会社 東京環境アレルギー研究所

試験成績書発行年月日：2009年12月10日

試験成績書発行番号：No.09M-RPTEDC020-1

対象アレルギー	1分後	5分後
スギ花粉アレルギー (Cry j 1)	0.68 99.5%低減	<0.5 >99.6%低減
ダニアレルギー (Der j 1)	0.52 99.4%低減	<0.5 >99.4%低減

検出限界：0.5ng/ml

■安全性試験

全ての試験において安全性が確認されました。

試験名	試験依頼先	試験結果
ウサギを用いた 眼刺激性試験	財団法人 日本食品分析センター	無刺激物

試験成績書発行年月日：2009年9月18日

試験成績書発行番号：第309070960-001号

ウサギを用いた 皮膚一時刺激性試験	財団法人 日本食品分析センター	無刺激物
----------------------	--------------------	------

試験成績書発行年月日：2009年9月28日

試験成績書発行番号：第309070960-002号

ラットを用いた 急性経口毒性試験	財団法人 食品農医薬品 安全性評価センター	毒性は極めて弱い
---------------------	--------------------------	----------

試験成績書発行年月日：2009年10月16日

試験成績書発行番号：No.B827 (560-001)

ラットを用いた 全身吸入暴露による急性毒性試験	三菱化学メディエンス株式会社	変化は認められない
----------------------------	----------------	-----------

試験成績書発行年月日：2009年12月24日

試験成績書発行番号：B090876

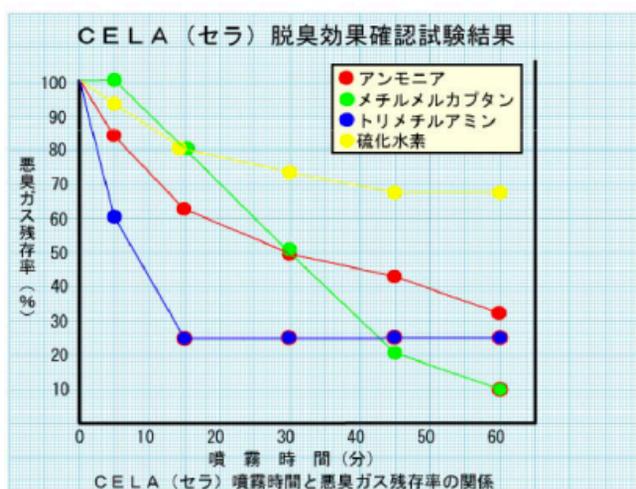
■脱臭効果確認試験

CELA水の脱臭に対する効果が第三者機関において確認されました。

試験依頼先：川重テクノサービス株式会社

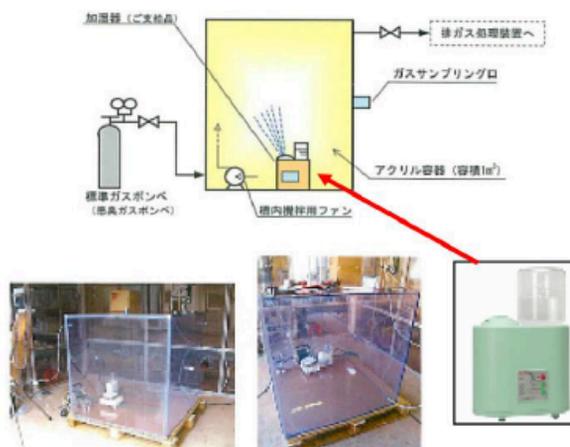
試験成績書発行年月日：2009年11月13日

試験成績書発行番号：K09J1501



(注) 図中●と●は、検知管の測定下限濃度以下となった為に、測定器の下限値を記載した。

試験装置概略図



私達がめざしているのは
大切な人があつまれる場の提供
～マスクをしなくても良い空間～

ブリッチバディ合同会社

〒569-1046 大阪府高槻市塚原2-39-34

TEL:070-5651-1706

FAX:06-7732-3907

E-mail:info@bridgebuddy.jp

<https://bridgebuddy.jp>